

ふるさとと歴史 アラカルト

岩国と珍魚（後編） アンコウとヤガラ

前回、史料で描かれたマンボウを紹介しましたが、江戸時代の岩国の記録にはその他にもいろいろな魚が描かれています。今回はそのうちのいくつかを紹介しましょう。

『岩邑年代記』によると、文化10（1813）年10月末、装束に住む長蔵という漁師が仕掛けていた鰯網に怪魚があがたと書かれています。港で見せたところ、華臍魚（アンコウ）ではないかという説が出たそうです。このアンコウとみられる魚は、『玖珂郡志』にも紹介されています。それによると、琵琶に似た形をしており、鯨尺という物差しで測ると体長2尺（約75cm）、頭の長さが6寸5歩（約20cm）、横が7寸（約21cm）だったことがわかります。

また『岩邑年代記』には、文化14年11月下旬、柳井堅ヶ浜（柳井市）の漁師が矢軒（ヤガラ）という魚を獲ったという事も書かれています。岩国藩士で絵師でもあった河野絲白が実物を見て

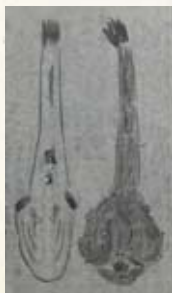
岩国で話したもので、太さ（胴回り）が2〜3寸（約6〜9cm）、長さが1尺（約30cm）で竹のような筋があり、真つすくな魚だったそうです。当時、ヤガラは臍症（飲食物が胸に詰まるように感じる病気で、現在の胃がん、食道がんにあたる）といわれるの妙薬になるといわれていたことも記されています。このように、カメラもない江戸時代の岩国の人々は、珍しい魚を見つけた際、スケッチをして記録に残していたのでしよう。



▲岩邑年代記に描かれたアンコウ



▲岩邑年代記に描かれたヤガラ



▲玖珂郡志に描かれたアンコウ

今回の史料
『岩邑年代記』…岩国藩における年代記で年代順に記録されている。多くの人に書き写されているが、今回の史料は嘉永5年に三浦伝右衛門が書き写したものの
『玖珂郡志』…岩国藩士で国学者の広瀬喜運が著した地誌で、藩内の各村について細かく記されている。享和2（1802）年。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

岩国市 人口・世帯

人口 142,297人【前月比 -16人】 男性 67,355人 女性 74,942人

世帯 66,820世帯【前月比 +23世帯】 ※外国人人口を含む（平成26年6月1日現在）

交通事故発生件数 5月分事故件数 32件（219件） 死者数 1人（5人） 傷者数 40人（261人）

※高速道路発生分を除く

※（ ）内は平成26年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337